

HIO YOG

教区新報

浄土真宗本願寺派 兵庫教区教務所
〒650-0011 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号
(本願寺神戸別院内)
電話 神戸(078)341-5949(代)
【編集】教区基推委広報部

2006. 7 148号

2008 年全国大会へ向けて 「仏壮姫路・西播大会」

去る、二〇〇六(平成十八)年五月二十八日(日)、たつの市総合文化会館・赤とんぼ文化ホールで「兵庫教区仏教壮年連盟」第三十二回報告総会、姫路・西播大会」が開催された。当

日は、六三〇名を超える、兵庫教区の仏教壮年の皆様が参加され、開会式では参加者が一同に「正信偈」をお勤した。小林元彦理事長は、挨拶の中で、「継続は力なりの言葉通り仏教壮

年活動を受け継いでいけますのも教区内の各寺院様、教団体の皆様の応援支援と諸先輩である仏教壮年会員のお陰と感謝の意を表します。しかしながら現代社会は複雑多様化する中で一人ひとりのつながりが希薄になり悩み苦しみを相談できる「朋(とも)」がないのではな

いかに、幸いにも浄土真宗のみ教えに出遇えた私たちは、一人ひとりのつながりを大事にし、悩み苦しみを語り合い「願(うなず)き合える朋(とも)」がいます。二〇〇八(平成二十)年に兵庫教区が開催教区となり、「第十九回全国仏教壮年連盟兵庫大会」が開催されます。この大会に教区の全寺院より仏教壮年の参加の目標を達成に向けて、教区基推では全寺院に仏教壮年会の結成依頼、仏教代表者選出依頼しているところであり、三十年を超える仏教を礎に「新たな始まり」となる大会となるよう、「願(うなず)き合える朋(とも)」の輪を広げていく努力を皆様と共に進めていきたい」と抱負を述べられた。



バス旅行 小学生の頃、子供の日、に父兄達が計画してくる子供会



開会式の様子

講演では、西脇修師(浄土真宗本願寺派布教使・宗会議員、揖龍西組超念寺住職)が「消息をいただいた」と題して「親鸞聖人七五〇回大遠忌について」の背景を踏まえながらお話をいただいた。現在、教区において、各寺院の壮年層を活性化することによって、仏婦、仏青、少年等の教化団体の活性化を願って、仏教の活性化を前押しした全国大会を目標に推進している。そんな中、開催されたおの大会は、教区仏教連盟の会員一人ひとりが改めて目標を認識する良い機会が得られたのではないだろうか。

兵庫 穴粟 佐々木蓮乗

教区だより		7月・8月	
7月1日(土) 別院第一土曜仏教講座 中垣昌美師	13:30~	7月24日(月) 第43回兵庫教区少年連盟サマースクール	26日まで
1日(土) 仏青リーダー育成研修会	本山 2日	27日(木) 教区門徒総代会一泊研修会	28日まで
3日(月) 第2回常備会	13:30~	29日(土) 勤式指導所	13:30~
6日(木) 布教団基幹運動研修会	13:30~	8月1日(火) 別院院大講座 富永真順師・藤田真哲師・近藤龍樹師	3日まで
7日(金) 別院仏婦定例法座 村井 丹師	13:30~	1日(火) 寺院子弟第2回得度考査研修会	2日まで
8日(土) 勤式指導所	13:30~	1日(火) 特別法務員連絡協議会(総会)	13:00~
9日(日) 仏社阪神・神戸ブロック研修会	10:30~	2日(水) 蓮華会総会研修会	13:30~
10日(月) 門推常任幹事会	13:30~	2日(水) 常備会	10:30~
11日(火) 寺族婦人会コーラス練習会	13:30~	5日(土) 別院第一土曜仏教講座 遠山正樹師	13:30~
15日(土) 別院常例法座 八木顕宣師	16日まで	15日(火) 別院孟蘭盆会 松村彰道師	13:00~
19日(水) 寺族婦人会研修会	10:30~	20日(日) 仏社丹波・但馬ブロック研修会	城崎組光行寺 13:30~
19日(水) 連研部会	13:30~	22日(火) 教区会議員研修会	北海道 24日まで
20日(木) 通算第134回臨時教区会	10:30~	26日(土) 東西真宗保育研修会	須磨幼稚園 10:30~
20日(木) 新旧教務所長歓迎会 ホテルニューオータニ	15:30~	26日(土) 勤式指導所	13:30~
		28日(月) スカウトクラブ仏教章講習会	29日まで
		30日(水) 第13回世界仏教婦人大会	ハワイ 9月6日まで

10:30より。研修会講師、揖龍西組超念寺・西脇修師 ◆29日「団体参拝」大阪教区南郡組光岡 ◆30日「仏婦幹部泊研修会」2006(平成18)年5月30日から31日にかけて教区仏教婦人会連盟の幹部一泊研修会が開催された。新スローガン「ともにいのち かがやく 世界へ」を研修テーマに「いのちの大切さ」について、鬼倉興龍総連盟講師からお話と問題提起をいただき、班に分かれて話し合いをおこなった。翌日、仏教讃歌の指導を仏教音楽・儀礼研究所指導員釋氏清子氏にいただき、あわせて6月22日に豊岡市民会館で開催される第2回兵庫教区仏教婦人会連盟大会での音楽礼拝のレハサルをおこなわれた。その後、前日の話し合いの発表と全体会、まとめの講話がおこなわれた。参加者は83名。31日まで



門推総会の様子

6月2日「寺婦連盟委員」神戸別院にて、10:30より ◆3日「団体参拝」大阪府建築士会(団体参拝)安芸教区高田北組正念寺(神戸別院第1土曜仏教講座)講師、漢正史師。神戸別院にて、13:30より「保育連盟近畿ブロック新任研修・補任式」本願寺にて ◆4日「門推平成18年度総会」並びに第42回研修会「午前総会が持たれ、前年度の報告と新年度の計画が協議された。午後からは、古古川組普光寺の近藤龍樹師を迎え、「新スロー

研修会」神戸別院にて、15:00より ◆15日「近同推総会」本山にて「団体参拝」東京教区恵光寺(別院永代経)神戸別院にて、13:30より。講師、滋賀教区・坂丘大愚師、16日まで ◆17日「勤式指導所」神戸別院にて、13:30より「仏青近畿ブロック研修会」連絡協議会「津村別院にて、18日まで ◆19日「蓮華会理事會」神戸別院にて、13:30より「組織教化活性化専門部会」神戸別院にて10:30より ◆20日「少年連盟サマースクール現地研修」出石にて「団体参拝」東海教区朝明組法徒寺

敬 弔

- 前田晴雲(播磨中組光正寺前住職) 4月23日、79歳で往生
- 別所 忍(高砂組教覚寺前坊守) 5月4日、75歳で往生
- 藤田眞忍(神明組覚正寺前住職) 4月30日、92歳で往生
- 関本弘宣(神戸西組本誓寺衆徒) 5月3日、81歳で往生
- 谷本恵美子(神明組金覚寺本願寺参事) 5月14日、92歳で往生
- 柳川眞隆(北摂組願生寺住職) 5月16日、66歳で往生
- 梨尾益子(阪神北組教連寺前坊守) 5月31日、86歳で往生
- 楠 真澄(出石組福成寺前住職) 6月3日、83歳で往生
- 藤本義宏(朝来組善證寺前住職) 6月8日、75歳で往生
- 本多昌子(出石組乗専寺前坊守) 6月11日、80歳で往生
- 高坂ちる(神戸西組光瑞寺前坊守) 6月19日、99歳で往生

【敬称略】 6月20日現在



この度 教務所長の人事異動があり、6月1日

松村彰道新所長着任

付けて大阪教区出身の松村彰道新所長が着任されました。川那部好晴前所長は東北教区へ転勤となりました。なお、7月20日午後3時半より神戸ハーバーランドニューオータニで「新旧教務所長歓迎会」が開催されます。詳細については次号で改めて報告いたします。

今年度教区基幹運動計画 『ともにいのちかがやく世界へ』新たなスローガン

【目 標】

「御同朋の社会をめざして」「スローガン」
「ともにいのちかがやく世界へ」

【重点目標】

1. 親鸞聖人七五〇回大遠忌を「勝縁にみ教えを弘める」。
2. 聞く「伝えよう阿弥陀仏のこころ」(総結集の成果の確認)。
3. 組の活性化と基幹運動の推進。
4. 寺院で各教化組織の結成促進を図り、特に仏社の全寺院結成をめざす。

【主 旨】

宗門の基幹運動である、門信徒会運動・同朋運動とは、阿弥陀仏の本願を究極の依りどころとして生きられた親鸞聖人に学び、つねに全員が聞法し伝道しながらその中で、わたしと教団の体質を点検し、さらに差別をはじめとする社会の問題に積極的に取り組み、ともに御同朋の社会をめざす運動であります。わたしたちの兵庫教区はこの運動の理念のもと、二〇〇四年に一万三千人以上の僧侶、門信徒が一同に会し「兵庫教区御同朋総結集」万人大会で確認した、「お念仏のよるこびを伝えよう」「生活

信条の実践をしよう」「共に生きるお寺を築こう」「尊いのちを大切にしよう」を体し御同朋の社会を目指して運動を推進いたします。

その思いを、長期計画に反映し兵庫教区は来たる二〇一二年(平成二十三)年宗祖親鸞聖人七五〇回大遠忌法要のご勝縁にむけて、まず私が「聞く伝えよう阿弥陀仏のこころ」を行動にします。ひとりの念仏者として活性化し組にし、開かれた寺院にし、念仏を慶ぶ僧侶、門信徒になる決意を確認して行かねばなりません。

今年度より、教区のスローガンも「新たな始まり」〜今日からスタート〜として宗派と同じく「ともにいのちかがやく世界へ」と変更し、混迷する現代社会へ開かれた浄土真宗を明示していくことになりました。

新しくなったスローガンが表すように、いのちの尊厳と平等をもとに一人ひとりの苦悩に共感できる教団と私を築くため念仏を通して男女共同参画を進め、これまで以上に門信徒と僧侶がこれらの課題を共有していかなければなりません。

そのほか、重要な課題がたくさん提起されていますが、同じ願いに立つ人々と共に、努力し

ていくことこそ現状を打破していく大きな力となり、御同朋の社会を目指す営みとなります。

ここに、重点目標としての四つのテーマを柱とし、御同朋の社会の実現をめざして、四部門で取り組まれてきた運動を引き継ぎ、本年度の兵庫教区における基幹運動を展開していきます。

【重点目標】

- (1)「親鸞聖人七五〇回大遠忌を「勝縁にみ教えを弘める」
- (2)「聞く「伝えよう阿弥陀仏のこころ」(総結集の成果の確認)」
- (3)「組の活性化と基幹運動の推進」
- (4)「お寺は形式的な儀礼のみの繋がりに終始している」と言われるが、「本堂で正信偈を」「門徒と共に勤めずることも宗教感情を育てる上から重要であります。本堂をまず念仏道場として活用するには僧侶、門信徒が何から始めるか、できることからスタートすることが重要です。」

そのため、本山における大遠忌法要に先立ち、組や寺院におけるお待ち受け行事の開催はもろろん、各寺院における遠忌法要を厳粛にお勤めすることにより、御同朋の連帯と念仏の和を拓ける動きとして、いかなければなりません。

教区内のブロックや別院教室などにおいても、法要や研修会を持ち、より多くの方々にみ教えに遇ってもらう機会を作って行きたい。

また、み教えを弘めるためには、分かりやすく親しみやすい教えと、悩みに応える伝道方策を教区独自に検討していく必要もあるでしょう。

(2)「聞く「伝えよう阿弥陀仏のこころ」(総結集の成果の確認)」
お念仏を依りどころとする人々の集まりであるこの教団を子や孫に伝え、新しい人材を育てるためには、「寺院に参詣が少なくなくなった現実、特に住職・僧侶が危機意識にめざめ」「伝えてこなかったという厳しい反省に立ち積極的にお法を聞いて伝えていく姿勢が求められます。」

現代にお法を伝えるには、住職・僧侶・門信徒が一致協力して、その具体的方策を樹立し、実践しなければなりません。

僧侶、門信徒が一同に総結集した「兵庫教区御同朋総結集」万人大会の成功とその成果は僧俗共に、開かれたお寺に念仏のよるこびがあふれ、集い合う念仏者が互いのいのちを尊び合う人間関係の構築という一つの目標に向けて一歩を踏み出す決意となりました。

(3)「組の活性化と基幹運動の推進」
私達の周辺には「いのち」の尊厳を傷つける問題が山積みしています。そのことは、そのままがわたしの課題であり、一日も早い解決をめざして実践しなければなりません。阿弥陀如来のおこころをいただき、親

如来のおこころをいただき、親鸞聖人の御同朋の精神に生きようとするとき、私たちの活動は自ずと、社会の問題を担う活動になります。

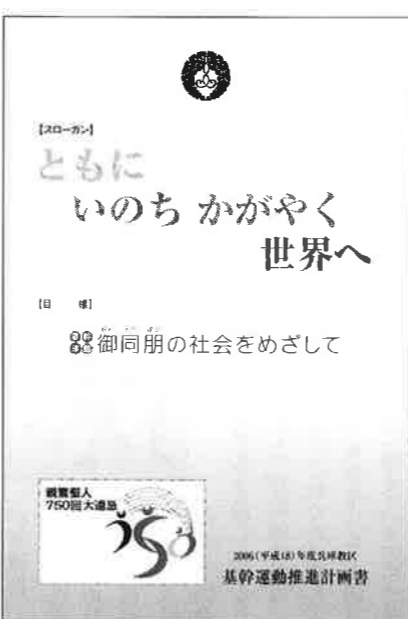
このことは、「信心の社会性を明らかにしていく」営みを具体的に推進することによって明らかになります。差別法名・過去帳調査からの学びと課題を、門信徒と僧侶が共有するためにも組同朋講座の全組開催と全住職の参加が、また一人でも多くの門徒の参加が求められなければなりません。

具体的な取り組みとして、教区・組の基幹運動推進委員会の充実と、同朋運動の課題を門信徒の方々と共に共有していくことが大切です。委員会構成には教化組織団体代表を初め、門信徒や女性の比率を上げ、広く意見を聞くことも必要です。また新たに提起された差別的現実を学び、その撤廃に積極的に取り組む自らの姿勢を

「お寺は形式的な儀礼のみの繋がりに終始している」と言われるが、「本堂で正信偈を」「門徒と共に勤めずることも宗教感情を育てる上から重要であります。本堂をまず念仏道場として活用するには僧侶、門信徒が何から始めるか、できることからスタートすることが重要です。」

その実践目標として各教化組織が連帯し、仏法活動の活性化と全寺院結成をめざすことが、ひいては寺院や組を活性化し、念仏を次の世代へと繋げる営みとなることであると考えます。

築き上げなければなりません。(4)「寺院で各教化組織の結成促進を図り、特に仏社の全寺院結成をめざす」
「お寺は形式的な儀礼のみの繋がりに終始している」と言われるが、「本堂で正信偈を」「門徒と共に勤めずることも宗教感情を育てる上から重要であります。本堂をまず念仏道場として活用するには僧侶、門信徒が何から始めるか、できることからスタートすることが重要です。」



築が求められます。僧侶が人びとの喜びや悲しみに共感しつつ活動をしているかどうかの点検を通して地域共同体や家庭に根を降ろしてきた浄土真宗の本來性を回復し、生き活きた問題からとりくんでゆかねばなりません。

【部門別活動項目】

基幹運動推進のための「教学・伝道部門」

- ◇ 社会と時代に即応できる僧侶の教学研修
- ◇ 儀礼儀式の検討
- ◇ 文書伝道・視聴覚教材・T機器による伝道と研究開発

基幹運動推進のための「同朋運動部門」

- ◇ 組同朋講座、差別問題への取り組み(差別の本質・法義上から)
- ◇ 僧侶寺院・総代・仏女・仏婦等の同朋研修と講師育成講座の推進
- ◇ 平和・ヤスク・ハンセン病差別環境問題への取り組み

基幹運動推進のための「門信徒会運動部門」

- ◇ 全員聞法・全員伝道の具体的な活動
- ◇ 連研・門推研修の充実
- ◇ 教化団体・組織団体の充実と活性化(仏社・少年教化の拡充)

基幹運動推進のための「社会対応部門」

- ◇ 過疎過密に学ぶ新しい「て

◇「ら」づくり
◇ 初参式、仏前結婚式の広報と推進
◇ ビハラをふくむ社会福祉問題の研修と実践

HO日誌

◆4月22日 別院子ども会はなまつり 神戸別院にて、10:00より
◆25日 ビハラ総会・公開講座 総会後の公開講座では、大阪教区中島東組瑞松寺住職で、淡路介護老人福祉施設「ビハラ」施設長の野村康治さんから親鸞聖人のエピソードに聞く」と題して口伝抄にある高田の覚信房を親鸞聖人が見舞われたときに、往生の歡びから仏さまのご恩を思い念仏していること聞いて涙をながされたことを通して、臨終・葬儀での僧侶と門信徒の関わりについて話された。例えば、入院期間中に一度もお見舞いに行かずに、通夜での法話が伝わるだろうか。夜中に臨終の電話が少なくなつたのは、もう遅いから明日行きますという返事に悲しい表情を浮かべているのを葬儀社の人は知っているからではないかなど、僧侶の生きざまが問われているという指摘であった。その他、介護保険の判定委員の経験から判定の変更で末期ガンや若年認知症が保険適用となったことなど、介護保険制度の変更内容についても教えていただいた。

た。神戸別院にて、13:30より
◆26日 団体参拝 山陰教区鹿足組得台寺 / 団体参拝 福岡教区嘉麻組西郷寺 / 常行寺対応委員会 神戸別院にて、13:30より
◆28日 加古川学園教誨 加古川学園にて、13:00より
◆29日 団体参拝 大阪教区遠慶寺 ◆5月1日 門推四役会 会計監査 神戸別院にて、10:30より
◆6日 別院第一土曜仏教講座 神戸別院にて、13:30より
◆7日 滋賀教区 漢正史師 ◆7日 団体参拝 佐用組光福寺 / 仏青総会・交流会 神戸別院にて、15:00より
◆別院仏婦連盟法座 神戸別院にて、13:30から
◆講師 神戸湊組光明寺・山西昭義師 ◆9日 社会対応部門 神戸別院にて、14:00より
◆11日 同兵連連 総会・研修会 同和問題に取り組み兵庫東宗教教団連絡会議の第25回総会が神戸別院にて開催された。総会には、東連から赤松賢有委員長も来られ、挨拶をされた。総会の後、ビデオ「私の好きなまち」の上映と宇治田前議長の公演がおこなわれた。宇治田さんは、部落問題との出会いや取り組みから見えてきたことなどを振り返り、「時代が変わりつつあるが、同和問題を中心にすえ、人権問題をその上に築き上げていくことが大切だ」と語った。 / 保育連盟総会 神戸別院にて、15:30より
◆12日 門推新旧

幹事会 本年度は各組門徒推進員の代表者である幹事の交代となり、今回の会議では、新旧の幹事(組代表者)が集つての会議となった。◆13日 団体参拝 朝来組極楽寺 ◆15日 別院常例法座 神戸別院にて、13:30より
◆16日 講師、神崎組真楽寺・寺本峰昭師、16日まで ◆16日 布教団役員会 神戸別院にて、10:30より
◆17日 少年連盟役員会・意見交換会 役員会が行われた後、意見交換の場が持たれ、今後の少年教化活動についての熱い意見交換が行われた。15:00より、神戸別院にて ◆17日 仏婦連盟委員会 各組代表の委員紹介の総会。前年度事業の反省、本年度事業の計画を協議。また、昨年に行われた教区総会についての内容が確認された。神戸別院にて、10:30より
◆18日 総代会 評議員総会 教区門徒総代会の平成18年度総会。年度事業の計画等が協議される中、今後の総代会の在り方、活動方向についての熱い議論が交わされた。神戸別院にて、13:30より
◆19日 教区基幹運動推進委員会総会 神戸別院にて、10:30より
◆別院もちつき 神戸別院では別院仏婦会が中心となって毎年恒例で、宗祖降誕会のお供え用としてのおもちを本格的に杵と臼でついでいる。搦き手は、別院仏社会員、別院職員が順番に12臼のも

ちをついた。◆21日 団体参拝 奈良教区西光寺 ◆22日 社推協総会・協議会 社会福祉推進協議会兵庫支部の総会並びに評議員協議会が開催された。この度の評議員協議会はパネラーとして淡路組浄光寺住職梅林雅道氏、神戸湊組宝珠寺住職鷺尾衛鳳氏を招いての開催となった。協議会にいたるまでに、教区基幹運動推進委員会の社会対応部会において、「寺院・門信徒が社会的視野を広げるための講座を開きたい」との提案からビハラ実践のための研修や老人介護の実態と対応についての研修という課題がもちあげられた。

梅林氏はご自坊の本堂を使用している在宅療養者のついで「ビハラとも」を毎月開催しておられ、お世話をするスタッフ・利用者するメンバー合わせて約70名の方々が集つておられる。震災以後地域の方との連携により開催できるようになったついでであり、現在に至るまでには机や椅子・トイレなど施設の問題、利用者の送迎や医療関係者との連絡など様々な障害をみんなの協力で乗り越えてこられた。寺院を解放しての活動、またスタッフ・メンバーの高齢化に伴う問題 課題を投げかけられた。鷺尾氏はビハラ兵庫代表として、昨年度のビハラ実践活動の推進を通して活動の現況と課題などを話された。本協議会はそのついでに福祉現場の現



鬼倉興龍師の講演